

研修参加報告書

令和 7 年 8 月 2 9 日

会 派 名 江政クラブ
会派代表者 堀 元

(参加者：堀 元、大薮豊数、須賀博昭)
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和 7 年 8 月 2 7 日（水）～ 2 8 日（木）
研修時間	8 月 2 7 日 1 3 : 0 0 ~ 1 6 : 5 0 2 8 日 9 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0
研修場所	札幌文化芸術劇場 hitaru
研修内容	第 2 0 回 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 —地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて— ・ 基調講演 「主権を預かる誇りと責任」 元衆議院議長 伊吹 文明 氏 ・ パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ●コーディネーター 近畿大学法学部 教授 辻 陽 氏 ●パネリスト 東京大学 教授 牧原 出 氏 読売新聞東京本社政治部 次長 白石 洋一 氏 山口県宇部市議会 議長 山下 節子 氏 北海道札幌市議会 議長 長内 直也 氏 ・ 課題討議 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」 ●コーディネーター 関東学院大学法学部地域創生学科 教授 牧瀬 稔 氏 ●事例報告者 長野県岡谷市議会 前議長 今井 康善 氏 鹿児島県南さつま市議会議員 平神 純子 氏 石川県白山市議会 議長 中野 進 氏

研 修 参 加 報 告 書

年 月 日	令和7年8月27日（水）～28日（木）				
研修時間	8月27日 13：00～16：50 28日 9：00～11：00				
研修場所	札幌文化芸術劇場 hitaru				
研修内容	第20回 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 —地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて— ・基調講演 「主権を預かる誇りと責任」 元衆議院議長 伊吹 文明 氏 ・パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ●コーディネーター 近畿大学法学部 教授 辻 陽 氏 ●パネリスト 東京大学 教授 牧原 出 氏 読売新聞東京本社政治部 次長 白石 洋一 氏 山口県宇部市議会 議長 山下 節子 氏 北海道札幌市議会 議長 長内 直也 氏 ・課題討議 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」 ●コーディネーター 関東学院大学法学部地域創生学科 教授 牧瀬 稔 氏 ●事例報告者 長野県岡谷市議会 前議長 今井 康善 氏 鹿児島県南さつま市議会議員 平神 純子 氏 石川県白山市議会 議長 中野 進 氏				
■目的 全国市議会議長会研究フォーラムでは、全国の市議会議員が一堂に会し、共通する政策課題等について情報交換を行うとともに、議員相互の連携を一層深めることを目的としている。 喫緊の課題である議員のなり手不足に対しては、具体的な対策を共有・検討するとともに、主権者教育の推進、ICTの活用、オンライン議会の導入などを通じて議会の魅力を市民に伝え、さまざまな背景を持つ人材が働き方と両立しながら誇りをもって活動できる環境・仕組みを整備することを目指す。					

■ 内容

(1 日目)

・ 開会挨拶と開催趣旨

第 20 回全国市議会議長会研究フォーラムは、全国から多くの議員が集い、盛大に開催された。開会にあたり、会長の丸子善弘氏から挨拶があり、今回は 2,500 人の参加者に対して 3,000 人以上の応募があり、抽選で 500 人が参加できなかったことが報告された。地方議会の「なり手不足」の深刻さに触れるとともに、改正された地方自治法を踏まえて、議会の役割や課題を検証し、解決策を探る重要な場であると位置づけられた。続いて、フォーラム全体の問題提起と 2 日間のプログラムの概要が説明された。

・ 開催地からの挨拶と地域紹介

続いて、開催地を代表して長内直也市議会議長から挨拶があった。北方領土返還に関する署名活動や地元物産販売の紹介が行われ、来場者に地域の現状と魅力を伝えた。次に秋元克広札幌市長が登壇し、2,300 席を擁する本会場の規模を紹介。札幌の夏祭りや北海道マラソンなど地域の活気あるイベントに触れ、さらに次世代半導体産業の拠点形成など、北海道が新たな成長局面を迎えている現状が報告された。

・ 基調講演

「主権を預かる誇りと責任」

元衆議院議長伊吹文明氏による基調講演では、地方自治のあり方や議員の使命について歴史的視点を交えて語られた。江戸時代の石高制度や庄屋・地主・小作人による地域運営、そして一揆や講に代表される自治的仕組みを例に挙げ、日本の自治の伝統がいかに形成されてきたかを紹介。その上で、大日本帝国憲法から現行憲法に至る政治制度の変遷を整理し、特に二代表制の特徴を強調した。知事や市長、市議会議員が共に住民から直接選ばれる仕組みは、地方自治の根幹であり、市議会議員は誇りをもって住民の声を行政に届ける責務があると述べた。また、議員報酬や退職後の生活保障の不十分さを指摘し、このままでは財産を持つ人しか議員になれないと問題提起。市議会の予算を独立させ、制度として議員の活動を支える必要性を強く訴えた。

・ パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

パネルディスカッションでは、辻氏をコーディネーターに、牧原氏（大学教授）、白石氏（読売新聞）、山下宇部市議会議長、長内札幌市議会議長らが登壇した。議論は「なり手不足」を軸に進められた。

牧原氏は、デジタル技術やオンライン議会の活用により、子育てや介護と両立できる柔軟な議員活動の可能性を示した。白石氏は、島根県大田市の新庁舎建設問題や、議員活動に伴う経済的負担を例に挙げ、地方議員の厳しい実態を報告。山下氏は、議員年金制度の廃止後の不安定さを指摘し、厚生年金加入の必要性を訴えた。さらに、主権者教育や高校生議会などを通じて市民に議員活動を理解してもらう重

要性を強調した。長内氏は、北海道での取り組みとして、子ども向け議会教室や広報活動を積極的に展開し、若年層への主権者教育が有効であると紹介した。

総括として、議員活動環境の整備は「お金」だけでなく「制度設計」も不可欠であり、誰もが立候補できる仕組みを作る必要性が確認された。

(2日目)

・課題討議

「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

「なり手不足問題」について、具体的な事例と取り組みが報告された。岡谷市の今井前議長は、全国で唯一定員割れを起こした市の実態を紹介。南さつま市の平神議員は、女性議員比率の低さや離島を抱える地域特有の課題を語り、鹿児島県内で「女性議員を100人にする会」を立ち上げた経験を共有した。白山市の中野議長は、オンライン委員会やICTの活用による議会改革を紹介し、多様な人材が参加できる環境整備の必要性を強調した。

パネル討論では、「情熱・お金・仲間」が議員活動の三要素として挙げられ、議員は勉強し続ける姿勢が不可欠との意見が一致。また、若者や子育て世代が参加できるよう、働き方改革やオンライン出席、介護・育児休暇の整備が議論された。さらに、報酬や年金制度の再設計も重要であり、身を切る改革と同時に、議員が安心して活動できる基盤づくりが求められるとの指摘が相次いだ。

■所感

今回のフォーラムを通じて、全国的に深刻化する「議員のなり手不足」への対応が最大のテーマであることが浮き彫りになった。議員報酬や年金の課題、政治活動に伴う経済的負担、働き方との両立の難しさが立候補を阻む大きな要因となっている。一方で、主権者教育やICT活用、オンライン議会の導入など、議会の魅力を高め市民に理解を広げる取り組みも着実に進んでいる。

議会は多様な人材が集い、多様な意見をぶつけ合う場である。その魅力を市民に発信し、誇りを持てる議員活動の仕組みを整えることが、地方自治の持続可能性を支える鍵となる。今回の議論は、その第一歩として大きな意義を持ったと言える。